OT3: CEFR-OJAE９レベル「話し言葉の質的側面」

CEFR(2001), **吉島/大橋訳(2004)** 「表３」, COE ; Language Policy Division, Strasbourg **(2009. Jan),** "Relating Language Examinations to the CEFR : A Manual", www.coe.int/lang. <21.07.2010>, p123, OJAE-Team 日本語訳「言語試験の CEFR への関連付けマニュアル 改訂版」（2010）**を参考に OJAE 特化**

		全体	使用幅　H	正確さ　S	流暢性　R	結束性　K	交話　I
熟達した言語使用者	C2	自然体で楽々と話せる。学習に高度に成功したレベルで､複雑な状況下にあっても、最適に且つ簡明に効率良く表現でき、流暢で正確である。細かいニュアンスの違いを使い分け、慣用句や口語体表現などのレパートリーも広く、それらの含意を意識した上で上手に使える。抽象度の高い話題についても、論理構築手段を適切に用いて、自・他の視点に立って根拠や論点を明示しながら一貫して論じたり、分析したりができる。言語・非言語標識を駆使し、相手の反応を確認しながら、違和感を起こさせずにやり取りすることができる。待遇表現（素材敬語：尊敬、謙譲）使用も正確で、婉曲表現などを含め社会言語的により洗練されたコミュニケーションができる。	非常に柔軟に表現ができる。細かなニュアンスを出したり、一部を強調したり、細部に幅を持たせたり、曖昧さを避けたりするために様々な表現手段を駆使し、言い換えなども自由にできる。また慣用句や口語体表現などのレパートリーも広く、適切に使いこなすことができる。	話の先を考えたり、相手の反応に注意を向けたりしながらも、高度で複雑な構文が正しく使える。母語話者に近い発音・プロソディーで話し、待遇表現を中心とするスピーチレベル・シフトも正確にコントロールできる。	抽象的な話題で､概念化が難しい時でも､自然な流れの口語体で、軽々と自己表現ができる。長い発話や、難しいところでのやり直しや再構成があっても、自然体でスムーズである。	さまざまな結束手段、接続表現を幅広く適切に使いこなし、談話を一貫して論理的に展開することができる。	非言語標識、或いはイントネーション標識を適切に選び、軽々としかも巧みにやり取りができる。発言権を取ったり、話し続けたりすることを場面に即して円滑に進めることができる。前の発言に言及したり、示唆したりしながら、会話の流れに寄与することができる。
	C1	様々なテーマに関して、ほとんど苦労せず自由に自己表現ができ、言葉を探しているという印象がない。概念的に難しいテーマの時には言葉の自然な流れが妨げられることはあっても、状況に応じて適切な表現が選択でき、構成の整った話ができる。他者の感情について慮ることができ、その配慮を言語化することができる。議論の場においても、自分の見解を詳細かつ明快に表明し、質問やコメントに適切に応じ、説得力のある論理を展開できる。恩恵表現（～テクレル／～テモラウ）を使うことができる。	流暢で自然なコミュニケーションを可能にする幅広い会話構成手段を有し、語彙が不足する場合に、回りくどい言い方にはなっても、ほとんど苦労なく自己表現ができ、一般、学術、職業、余暇などの幅広いテーマについてコメントができる。	議論の場においても、文法的正確さを高いレベルで維持できる。長い発話でも、間違いはたまで、ほとんど目立たず、いつも自分で直せる。待遇表現を含む幅広い会話構成手段から適切な表現を選ぶことができる。	抽象的な話題で、概念化が難しい時には言葉の滑らかさが妨げられることもあるが、大抵の話題について苦労せずに発話できる。	発言権を得たり、時間を稼いだりするための「話の導入」ができ、先を考えながらでもそれができる。明瞭で構成の整った流れの良い談話で、説得力のある話しができる。	手持ちの談話表現からふさわしい語句を選んで、前置きや話の導入をしてから自分の話を切り出したり、話を続けたりすることが上手にできる。自分の発言を他の話や相手の発言に関連付けることができる。

CEFR準拠 日本語口頭産出能力評価法 Oral Japanese Assessment Europe

© OJAE 2010

CEFR-OJAE９レベル「話し言葉の質的側面」 CEFR (2001), 吉島/大橋訳 (2004) 「表３」, COE ; Language Policy Division, Strasbourg (2009. Jan), “Relating Language Examinations to the CEFR: A Manual”, www.coe.int/lang. <21.07.2010>, p123, OJAE-Team 日本語訳「言語試験の CEFR への関連付けマニュアル 改訂版」（2010）を参考に OJAE 特化

		全体	使用幅　H	正確さ　S	流暢性　R	結束性　K	交話　I
自立した言語使用者	B2+	B2 能力の優秀版である。他の話者から出された見解や結論にフィードバックを出したり、それを引き継ぎ展開したりして、議論の発展に建設的に寄与できる。自分の発話を他者の発話に上手に関連付けることができる。様々な結合手段を効果的に使い、異なる見解の内容的関連性を示すことができる。重要点を的確に強調したり、論拠を支える細部を導入したりして、総合的な論述ができる。	明瞭な表現ができ、その際語彙や表現手段の不足から言いたいことを制限されている印象を与えない。	文法をよく身に付けている。固定化した文法の誤りがなく、たまにやり損ねや小さな構造上の欠陥はあっても、たいてい自分で訂正できる。	不慣れな話題でも、安定したスピードやプロソディーで話すことができる。	議論の場において、いろいろな結合手段を適切に使い分け、内容的関連を明らかにできる。	会話中適切に発話の機会を捉えることができ、その際様々な言語手段を使うことができる。自分の発話を他の人の発話に上手に関連付けることができる。
	B2	かなり広範な話題について、明確で詳細なテクストを産出でき、場面を適切に把握して話を進めることができる。自分の意見の叙述ができ、肯定的・否定的な見解の相違を言語化できる。母語話者と互いに無理なくやり取りできるくらいに、自然な会話ができる。意見の正当化、順序・過程の説明、推測を述べ、また必要に応じて提案ができる。相手に明確さを求めたり、自己発言を訂正したりできる。インタビューをして相手から必要な情報を得ることができる。指示語（抽象的コ・ソ・ア・ド：前方、後方照応）が正しく使える。	広範なテーマについて、まとまりのあるテクストを作り、自分の見解も明らかにできる。様々な選択肢の長所や短所を挙げながら、自分の視点を説明できる。非公式な議論においてなら議論をリードすることもでき、注解を入れ、立場を明らかにし、 仮説を立て、また人の仮説に反応したりできる。重文、複文を繋げて、段落構成ができる。	文法をかなりよく身に付けている。不慣れな話題でも、誤解を招くような誤りをした時は修正でき、よくする誤りに注意し、発話を意識的にチェックすることができる。言い損じや間違いに気付けば自分で訂正もできる。	長めの自由発話で、母語話者と互いに無理なくやり取りできるくらいに、一定のスピードで会話ができる。	効果的な議論立てに注意を向け、使える結合手段は限られていても、明確な談話構造を終わりまで一貫して構築することができる。	いつもエレガントとは行かないが、適切に会話を始め、発言の機会を獲得し、会話を終わらせることができる。よく知っている分野なら、理解を確認したり、相手の発言を促したりして、議論の発展に寄与できる。

CEFR準拠 日本語口頭産出能力評価法 Oral Japanese Assessment Europe

© OJAE

CEFR-OJAE９レベル「話し言葉の質的側面」 CEFR(2001), 吉島/大橋訳(2004) 「表３」, COE ; Language Policy Division, Strasbourg (2009. Jan), “Relating Language Examinations to the CEFR : A Manual”, www.coe.int/lang. <21.07.2010>, p123, OJAE-Team 日本語訳「言語試験の CEFR への関連付けマニュアル 改訂版」（2010）を参考に OJAE 特化

		全体	使用幅　H	正確さ　S	流暢性　R	結束性　K	交話　I
	B1+	B１能力の優秀版である。B1 で挙げた特徴は引き続き顕著であるが、多大な情報をやり取りするための表現手段が付け加わる。例えばインタビューやコンサルタントの際に必要な具体的なコメントができる（医者に症状を説明するなど）。もっとも描写の正確さは未だ制限されている。その他、なぜある事柄が問題なのか説明できる。短いストーリーや記事、トークや討論、ドキュメンタリー等を要約し、それに対し自分の意見を述べることができ、細部に関するさらなる質問に答えることができる。その他準備しておいたインタビューを実行することができ、得た情報をチェックして、確認を取ることができる（時には相手の返答が速過ぎたり、広がり過ぎていた場合は繰り返しを要求しながらであるが）。物事をどのような手順でやるか説明でき、且つ細かい指示を出すことができる。日常慣れ親しんだ場面で得てきた知識、情報を交換することができ、自分の得意分野で起こることなら、ルーティーンに属さないことでもある程度の自信を持って述べることができる。	十分な語彙、表現手段の幅を持っており、予測できない場面を描写したり、問題や考えのもっとも重要な側面をある程度の正確さで説明できる。映画や音楽のような文化的テーマについて自分の考えを述べることができる。	よく知った場面なら十分正しい表現ができる。母語の明らかな影響はあるものの、全般に文法構造をよく身に付けており、間違いはするが、伝えられるべきことは明らかに伝わる。	長めの自由発話で、明かな休止をしたり、行き詰まったりすることはあっても、自力で話を続けることができる。	B1 に同じ	議論での基本的な駆け引きの手段を使うことができ、会話や議論の進行に寄与することができる。議論中に他の人の意見に短くコメントすることができる。
	B1	標準的な話し方であれば、仕事、学校、余暇などの場で話される身近な話題の主要点を理解し、対応できる。身近な、または個人的に関心のある話題について、描写、比較、意見を言うなど、単純なテクストを産出することができる。ぎこちなさ（やり直し、繰り返し、言葉探しの休止など）はあるものの、意見を求めたり、賛意を述べたり、異義を唱えたりするなどのやり取りを維持できる。経験や出来事を報告したり、夢、希望、目標などを話したりでき、計画や見解について短く理由を付けて説明できる。授受（物）表現（～モラウ／～アゲル）が使える。	自分の周りで話されているまとまった議論の要点が概ね理解でき、自分の言いたいことの主要点を相手にわかるように伝えることができる。 家族、趣味、興味、仕事、旅行、話題の出来事に関して描写したり、比較、コメントしたりができる。基本的な感情表現を表現することができる。	予測可能な状況で、よく使われる構文や「決まり文句」を比較的正しく使える。	単文や短い重文などなら、何度も休止することなく話すことができる。長めの自由発話では、構文したり、言葉選びをしたり、修正したりするための休止が入るが、話の主要点は伝えられる。	一連の短い、単純な文節を繋げて、経験や出来事をナラティブ構成で話したり、理由付けしたりすることなどを含めて、まとまった発話ができる。	意見を求めたり、賛意を述べたり、異義を唱えたりできる。やり取りをする中で、理解の確認、理解の合図、共通基盤の確立をすることができる。話しを始め、終わらせたり、話題を変えたり、協力し合ったりして、結論まで持って行くなどの基本的な「やり取り管理」（co-operating strategies）ができる。

CEFR準拠 日本語口頭産出能力評価法 Oral Japanese Assessment Europe

© OJAE

CEFR-OJAE９レベル「話し言葉の質的側面」 CEFR(2001), 吉島/大橋訳(2004) 「表３」, COE ; Language Policy Division, Strasbourg (2009. Jan), “Relating Language Examinations to the CEFR : A Manual”, www.coe.int/lang. <21.07.2010>, p123, OJAE-Team 日本語訳「言語試験の CEFR への関連付けマニュアル 改訂版」（2010）を参考に OJAE 特化

		全体	使用幅　H	正確さ　S	流暢性　R	結束性　K	交話　I
基礎段階の言語使用者	A2+	日常的に使われる挨拶、会話での丁寧な表現など、社会的機能に関する表現手段が多数出て、挨拶したり、調子はどうか聞いたり、ニュースにコメントしたりできる。また短い社会的交流ができ、例えば仕事や休暇で何をするか訊いたり、またそのような質問に答えることができる。誘いに応じることができ、一緒に何をするか、どこに行くか話し合い、会う約束をとりつけることができる。人に依頼したり、人からの依頼を受け付けたりできる。さらに外出し、移動する際の表現も見られる。例えば店や郵便局や銀行などで簡単なやりとりができ、旅行するための情報を得ることができる。バス、電車、タクシー等、公共の交通機関が使え、知りたい基本的な情報を得、行き先を言い、チケットを買うことができる。日常生活で使われる品物やサービスを得、また提供することができる。	A2 能力の優秀版。予測可能で日常的な出来事に対処できるだけの基礎的な表現のレパートリーがある。しかし発言意図を言葉にする際に言葉さがしや妥協を強いられることが多い。	A2 に同じ	表現・構文探しはあるが、自分の身近なテーマについての短い文章なら、言い淀みながらでもひとまとまりの発話ができる。	最も頻繁に出る接続手段が使える。短い文章をつなげてストーリーを語ったり、ものごとを簡単に数え上げて説明したりすることができる。	直接的やりとりで、簡単で限定された会話なら、自分から始めて、続け、終えることができる。関心のあること、余暇、過去の活動などの話題に対し質問し、また答えることができる。相手が助け船を出しくれれば、予測可能な状況でのみ比較的楽に自分を理解させることができる。
	A2	日常よく使われる文や表現を理解し、基礎的な構文ができる。自分や家族、休暇、仕事などの身近なテーマについて、短く説明したり、情報交換に応じたりができる。言い直しや表現・構文探しの休止は目立つが、簡単な接続表現を使って文章を結び付けることができる。	覚えた言い回しや、語句を使って、日常の単純な情報を伝えることができる。現在形（～ル）、過去形（～タ）、アスペクト（動作の継続:～テイル)などを使って、基礎的な構文ができる。	アクセント・ イントネーションに母語の影響が少し残るが、内容伝達は妨げずに話せる。基礎的な構文上いくつかの間違いはあるものの、単純な文法構造なら正しく用いることができる。	プロソディー（リズム・メロディー）に母語の影響が残ったり、言い直し、つっかえ、やり直しが明らかに多いものの、フィラーなどを多用し、言いたいことを伝えることができる。	簡単な接続表現（「～ガ、デモ、～（ダ）カラ」など）を使って短文を結びつけることができる。	自分や家族、休暇、仕事など、自分がよく知っていることについてならやり取りすることができる。理解していることを示すことができる。
	A1	日常よく使われる挨拶と生活で必要最低限の表現を理解し、言うことができる。自己紹介ができる。また、住んでいる場所、家族や友達、自分の身の回りのものについて、質問したり、答えたりできる。それについて相手が自分に分かるように、ゆっくり、はっきり、分かりやすく話してくれたら、簡単なやり取りをすることができる。	ごく身近なことがらに関して、 日常場面の初歩的で具体的な語彙や表現を使うことができる。現在形の構文ができ、敬体（～デス・～マス)で言うことができる。	限られた文法構造や文形式で、暗記している範囲の文なら使える。	「ことば化」のための休止や言いよどみが多くあるが、単発的な、暗記した表現ならすらすら言えることもある。	ごく簡単な接続表現（「ソシテ」など）を使うことができる。	繰り返し、言い換え、修正が多くても、簡単な会話でやりとりができる。相手に自分が理解していることを示すことができる。

CEFR準拠 日本語口頭産出能力評価法 Oral Japanese Assessment Europe

© OJAE